

平成30年度 全国学力・学習状況調査の分析

うるま市立伊波中学校 国語科

1 取り組みの成果が見られる設問

大問	小問	設問内容	正答率 (差)	無答率 (差)
A 3	二	・場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する。 「父と保吉の言動についての説明として適切なものを選択する。」	84.3 % (+1.5)	0.0 % (-0.2)
A 8	二 2	・文脈に即して漢字を正しく読む。 「漢字を読む。(池の水が凍る)」	98.3 % (+0.5)	0.0 % (-0.9)
B 3	三	・相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く。 「話のあらすじを学級の友達にどのように説明するかを書く。」	53.0 % (+3.8)	18.3 % (+5.9)

2 課題のある設問

大問	小問	設問内容	正答率 (差)	無答率 (差)
A 6	二	・話合いの話題や方向を捉えて的確に話す。 「話合いの中で確認しなければならないことについての司会としての発言を書く。」	57.4 % (-8.4)	13.0 % (-0.3)
A 8	一 1	・文脈に即して漢字を正しく書く。 「漢字を書く。(紙をひもでタバねる)」	73.0 % (-6.0)	11.3 % (-1.9)
	一 2	・文脈に即して漢字を正しく書く。 「漢字を書く。(舞台のマクが上がる)」	49.6 % (23.3)	22.6% (+8.2)
	一 3	・文脈に即して漢字を正しく書く。 「漢字を書く。(先制点をユルす)」	63.5% (-7.9)	22.6% (+3.1)
	四 2	・目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く。 『「心を打たれた。」を文末に用いた一文を、主語を明らかにし、「誰(何)」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書く。』	20.9% (-1.4)	9.6% (+3.1)
	六 2	・歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む。 「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す。(とほさざるなし)」	58.3% (-4.7)	8.7% (+1.3)
B 1	三	・目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く。 『「天地無用」という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く。』	7.8% (-5.5)	9.6% (+2.6)

3 効果があった取り組み

- ・先生方の事前指導のおかげで、41問中22問で無解答なしであった。(53.7%)
- ・記述式の問題で、全国の正答率を上回るものが一問だけあったが、教材毎に「感想まとめ」を200字程度書く作業を取り入れたり、定期テストに課題作文を出題したことが良かったと考える。

4 授業改善のポイント(学年を超えて、共通実践可能な視点で)

〈教科〉

- ・定期テスト等の限定された範囲の漢字の読み書きはできても、その定着までは至っていないので、既習漢字は必ず使い、語句の意味調べを通し、熟語として理解するようにさせる。
- ・慣用句等は、普段の授業内でも頻繁に使い、聞き慣れるようにする。
- ・短文作成を多く取り入れ、主語述語の整った文が書けるように訓練する。
- ・記述問題に無解答の生徒が約1割おり、その手立てとして、書き方の例を示し、それに沿って書いていくように促していく。

〈学校全体〉

- ・最後まであきらめずにテスト(課題等)に臨む姿勢をとる。
- ・語彙力アップのために、普段の言葉遣いを良くし、人前で発表する場面を多く設定する。
- ・読書の質の向上を図る。